

[Select language ▼](#)[伊賀インフォメーション](#)[ホーム](#) > [観光スポット](#) > [吉田兼好ゆかりの地](#) [兼好塚](#)

吉田兼好ゆかりの地 兼好塚



伊賀市指定文化財

『徒然草』で知られる兼好法師を祀る草蒿寺跡の「兼好法師遺跡公園」内に地元の人が誇りとする**兼好塚**があります。

住所：伊賀市種生国見

備考：[種生神社](#)・常楽寺を右手に見て、細い道を左折。南へ約1キロ（看板あり）駐車場あり



草蒿寺跡には「兼好法師終焉之地」の石碑が建ち、森の奥には「南朝忠臣兼好法師」と刻まれた顕彰碑と、木々に囲まれた塚があります。



遺跡地は東西20m、南北30mの平坦な雑木林で、高さ1.2mの遺跡碑が中央に建てられ、碑の前に土石がすこし高く積み上げられていて、これが兼好の塚と言われてます。



遺跡碑の奥に兼好塚があります

種生の国見山は、『徒然草』の作者として有名な**兼好法師**が晩年を過ごした地として広く知られています。幼少より和歌や文芸に秀でていた兼好は出家し、兼好法師と名乗って諸国を巡り歩きました。晩年はかねて相愛であった小弁の局の父、橘成忠の招きでこの地に庵を開き、余生を送る傍ら、徒然草を執筆したといいます。



また、公園内には松尾芭蕉の高弟・服部土芳が1698年にこの地を訪れた時に詠んだ
《月添いて かなしさこほる 萩すすぎ》の句碑が建っています。
その奥には梅林がありますが、近年鹿の食害がひどいので柵が設置されています。

元禄期に京都の公卿篠田厚敬がこの地を訪れ、篠田厚敬稿「種生伝」、土佐光成筆「兼好画像」、頓阿・弘融・兼好の
和歌色紙などを寄付しましたが、現在は常楽寺に残されています。**絹本着色兼好法師画像**は三重県の文化財に、**兼好
塚と草薙寺跡**は市の史跡に指定されています。



また塚の近くにある「**種生のオオツクパネガシ**」は伊賀市指定天然記念物で樹周囲3.5m、樹高20mで枝張り は東西
方向に23m、南北方向に21mになり樹齢は不明ですが樹がゴツゴツした質感で樹勢は旺盛です。県下でもまれな樹木
でその大きさから大変貴重な樹木です。

もしかしたら、兼好法師もこの樹を眺めていたのかもしれないね。



>>[歴史をたどる](#)

[前のページに戻る](#)



[サイトマップ](#) [このサイトについて](#)

〒518-8501 三重県伊賀市四十九町3184番地 TEL：0595-22-9670

Copyright (C) 伊賀市役所 産業振興部 観光戦略課 All rights reserved.